

磐城時報

編輯兼發行所 福島縣石城郡平町新屋町十四番地
印刷所 福島縣石城郡平町新屋町十四番地
電話 二二二
代印所 福島縣石城郡平町新屋町十五番地
電話 二二三
廣告料 一行十文字 一月五拾錢 三月一拾五錢 半年一拾五錢 一年一拾五錢
印刷 每日(日曜、祭日)休刊

教育勸語記念日に 教育団体の計画

石城教育団体を初め 各小學校でも記念事業

教育勸語頒發四十周年記念日の紀
念事業に關しては石城郡教育団
體その他教育団体に於て夫々適
當な事を計劃しつゝあるが、教
育部會では既報の如く一日午前
十時第一小學校に於て教育功
勞者として

▲高田橋竣工式

郡澤渡村地内好間川に架設せる
高田橋は本年五月工費一萬圓を
投じて起工、此の程竣工したが
二十九日午前十時から盛大なる
開通式を舉行する、同橋は三間
幅、長さ二十間、鐵骨コンクリ
ートの堅牢なるものである。

二十五臺の動力ポンプ

平町で水勢試験

一日午前九時から仲町地内で

双葉郡浪江町以南石城郡植田町は數年來同郡湯本町小野谷馬場上
までの各町村消防組の蒸氣、ガソリン、自動車の動力ポンプの兩名に對し所有水田二反三畝歩
試験は十一月一日午前九時からを小作せしめてゐるが、數年間
四時まで平町字仲町平町役場敷地に於て行ふ等であるが、検査に收獲してゐるのである。この
敷地に於て來平するものは大日本廿八日平署に告訴を提起した。

西山直三郎氏

表彰される

小作料未拂

平署に告訴

石城郡磐崎村下船尾蘆谷のふよとして表彰される事になつた。

三郡聯合教育會から 表彰される功勞者

濱三郡聯合教育會は既報の如く
十一月一日から平町第一小學校
に開催するが、教育功勞者とし
て表彰するものは左の三氏に
決定した

平對水戸 野球試合

平鐵道野球部では三十日正午か
ら水戸鐵道野球選手を迎へ平町
磐城中華學校グラウンドで試合を舉
行する。

湖月小南の 色香に迷ふ

既報磐崎村大字藤原前長太田
原朝治(四四)が區有現金中七百
二十八圓横領した事件について
平署猪狩高等係が取調べた處、
朝治は平町料理店寶來亭を根城
とし藝妓屋湖月方抱え藝妓小南
事藤田さわ(二六)につき込んだ
事判明した。

演奏會番組

平町三丁目天天堂音響部では
十一月一日午後六時から平町聚
樂館に於て「レコード大演奏會
」と「舞踏の夕」を開催するが番
組左の如くである。

第三小學校の 町民の批難高まる

第三小學校の通學道路問題は屢
報の如く前町會議員が委員をあ
げて豫定線として決定しておい
た第一案が現町會議員に於ても
委員をあげて調査した結果之を
適當と認め去る五月三十日委員
會に於て道路敷地を決定し縣當
局に對し認可を申請し實現の段
取りとなつたのであつたが、そ
の後委員中一二名の者が既に決
定した案に反對し正門東方に道
路を設ける案を持ち出すに至つ
たので、問題紛糾し今日まで道
路の實現を見ず、通學兒童に不
便を與へてゐるばかりでなく最
近に至つては又々第三案と稱す
る案が生じ何れに決定すべきか
全く見當がつかぬといふ有様な
ので、平町會議員の誠意さへも
疑はれて來たが、右について茨
源謙に苦しんでゐる關係町村に
る事となつた。

農會長會に 石城の出席

石城郡農會長會は十一月一日
京行進曲七、浪花節、木會富
五郎八、萬歳、拾丸の列戦九
五郎八、萬歳、拾丸の列戦九
節、相馬二遍返し十、浪花
節、大石妻子の別れ

相馬支局通信

▲原町の人口 今回の
國勢調査の結果相馬郡原町は
數二千二百四十八戸で、人口一
萬一千五百五十六人であるが、
内男五千四百七十六人、女六千
八百八十人、第二回調査に比し
五百八十人の増加を見てゐる。

鑛山税を移譲せよ

石城郡における炭礦關係の内郷鑛山税を移譲する案の貫徹につ
赤井、湯本、勿來、磐崎、好間を協議した結果最後の運動とし
等各町村長會は二十七日午後二時から三十日土曜日まで三光町
時から平町各種團體事務所内に全國町村長會事務所を福島、茨
開き鑛業税法を改正し炭礦によつて、北海道等各縣關係町村と聯
る急激な學童その他の激増で財合、内務、大藏兩大臣に陳情す
源謙に苦しんでゐる關係町村にる事となつた。

原町通信

三十年來の椿事

相馬郡飯豊村大字岡崎松川浦に廿六日豪雨、それ強風あり午後六時頃激浪押寄せ堤防潰し満潮と共に稻田に浸入り十數町歩に亘り刈り取りたる稲束を流失する騒ぎに消防組、青年團總出でそれに中村町より消防隊出動し村内より炊出しを運び應急工事をなした、こんな事は三十年來嘗てなき事だといふてゐる、目下被害調査中。

原町の景氣

原町の名産否な東洋に有名な原町紡織會社製のシユス織は今や其の産出高實に全國の三分の一を占め製品優良なので各方面に需用せられ供給に追はれてゐる有様、ばかりは全く不景氣知らずで、工男工女の顔色よく秋風をよそに春風迎花の態である。

平町人事

△婚姻 平町白銀町權太榮濱郡落合町落合松本榮子(二二)權太榮濱郡落合鈴木藏(二二八)平町長橋町竹島友枝(三三)平町町竹島リル(二五)△死亡 平町材木町松石サカエ(三二)

讀者

(投書歡迎) 論壇 卅行以上五十行迄

兵役と失業

元來兵役は國民の三大義務の一つとして絶對的なものである、そして我々は男子として兵役の義務に服することは最大の名譽とし、又入營兵を出す一家庭一町村はもとより之を光榮とし、その行をさかんに

してゐるのだ、入營者自身もその榮譽の前に断然自己の職業を放棄して重大なる使命の爲めに献身努力を惜しまなかつた。

かくしてこの最高なる職責を全うして目出たく歸郷せる除隊兵を迎ふるに社會は何を以て彼等に酬いたか、それはあまりにも悲しい失業の二字である、言はず國民を代表し二ヶ年の間激しい業務に追はれて来た除隊兵諸君の犠牲的行爲に對して、むしろ社會は當然積極的にその就職方法を講じなければならぬ道徳的義務がある。

入營の當初に當つて社會は笑顔をもちつて彼等を營庭に送つたにもかゝらず、その義務を全うして歸郷した彼等に對しては社會は一瞥をも送らないのだ、そして彼等は除隊の翌日よりパンのために路頭に迷はなければならぬ。こゝにおいて國民の最大名譽である兵役の義務について、もやうやく悪徳なる考慮をばさむものが出現する有様となつりつゝあるの時、除隊後の就職保證問題は、その時期遅れたりと云へ共當然來るべき必然的約束であつた、速やかに採用されんことを望む。

耳鼻咽喉科専門 平町仲田町七一 應入院 合津醫院 電話五五九番

佛國マルソー會社元詰 生葡萄酒 西村屋藥局

腸胃 毒核 院醫科 (七〇一話電)

嚴冬征服の王者 ストリープはフクロク

耳鼻咽喉科専門 氣管食道科専門 大和田醫院

外科専門 X光線科 上田外科醫院

平料理屋組合 顧客各位 秋とサロンの黒ビール

サロンの黒ビール 天は高く 氣は朗かに

平看護婦會 看護婦派出の需めに應じます